

平成22年度

研究紀要

第24号

特別な教育的支援が必要な幼児児童への指導の手立てを
充実させるための効果的な連携に関する研究

**幼児期における指導の手立てと成果を
小学校に円滑に接続するための方策**

障害の重度・重複化、多様化に対応する
自立活動の指導に関する研究

**「チームアプローチシート」を活用した
自立活動の指導の充実**

北海道立特別支援教育センター

ま え が き

平成22年5月に、文部科学省より「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」が出され、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、様々な方法を用いて、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握する必要があることが示されました。

本道においては、昨年9月に北海道教育委員会より「特別支援学校の配置に関する考え方」が示されました。特別支援学校の配置に関する基本的な方向としては、「できるだけ身近な地域において、障がいの種別などに応じた専門的な教育を受ける機会を確保する観点に立って、児童生徒等の障がいの状況や、本人・保護者のニーズを把握しながら、必要な受入体制の整備に努めること」と述べられています。

また、昨年12月には、国連の障害者権利条約の批准に向け「障がい者制度改革推進会議」から第二次意見が、中央教育審議会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」からは論点整理が示されました。いずれもインクルーシブ教育システム（包容する教育制度）が中核的テーマであり、今後の構築に向けての検討が推進されています。

当センターでは、このような道内外における特別支援教育の動向を踏まえつつ、緊要な課題を明確にし、その解決に資するための研究に取り組み、今回、2つの研究をまとめました。

「特別な教育的支援が必要な幼児児童への指導の手立てを充実させるための効果的な連携に関する研究～幼児期における指導の手立てと成果を小学校へ円滑に接続するための方策～」では、発達障害のある（疑いを含む）幼児について、幼稚園等から小学校へ円滑に接続するために必要な教育的ニーズを明らかにする視点及び引継の視点と方法を示し、幼小の円滑な接続のための方策について考察しました。

「障害の重度・重複化、多様化に対応する自立活動の指導に関する研究～『チームアプローチシート』を活用した自立活動の指導の充実～」では、自立活動の指導が一層充実することができるように、外部専門家の助言を自立活動の指導内容や方法に活かす上での考え方や過程を明らかにし、「チームアプローチシート」として整理しました。

本研究の内容については、当センターの研修講座やホームページ等を通して、研究情報の迅速な提供や普及を図ってまいりたいと考えております。各学校の実践や研究・研修活動に御活用いただき、その成果や課題などをお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究紀要の集録にあたりまして、多大なご支援を頂きました研究アドバイザー及び研究協力者と関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

北海道立特別支援教育センター

所 長 荒 木 文 生